ピンクリボンNEWS

2026年度 春号
Vol.15 No.1

発行人　認定NPO法人 J.POSH　　編集　ピンクリボンNEWS 編集委員会
発行所　J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号　TEL.06-6962-5071

J.POSH 日本乳がんピンクリボン運動®

TOPICS

マンモグラフィ検診の受診率向上とブレスト・アウェアネスの普及、そして患者さん一人一人のニーズに合った診療情報提供と意思決定支援を目指して



社会医療法人近森会
近森病院 乳腺外科 部長
乳腺センター センター長
杉本　健樹

2025年11月28～29日に高知県立県民文化ホールで開催した第35回日本乳癌検診学会学術総会の展示ブースにJ.POSHのみなさまにご出展いただいたことを切っ掛けに、このピンクリボンニュースに投稿する機会をいただきました。今回の学会のテーマは「みんなで支える乳癌検診―すべてのひとにスポットライトを―」で、出来るだけ多くの職種のみなさまに乳癌検診の現状と課題、そして改善策について議論していただけるプログラムを企画しました。

■ブレスト・アウェアネスの普及

日本女性の乳癌の発見契機は乳房腫瘤の自覚が最も多く約半数で、次いで検診発見が3割となっています。症状のない検診発見がもっと増えれば乳癌で亡くなる女性を減らすことが出来るのですが、受診率が50％に満たないのが日本の現状です（目標70％以上）。また、自己発見のためにブレスト・アウェアネスは大変重要な健康習慣ですが、高知県の健康イベントで昨年行ったアンケート（30歳代、40歳代の女性を中心に417人を対象）では、80％以上の女性がご自身の乳房に関心を持っていると回答しているにも関わらず、ブレスト・アウェアネスの認知度はたったの5.0％でした。全国でも同様の傾向があり、ブレスト・アウェアネスの普及はまだまだ不十分です。今回の学会を通して40歳以上の女性のマンモグラフィ検診受診率の向上とブレスト・アウェアネスの普及が急務であることが浮き彫りとなりました。

一方で、乳癌治療の進歩は目覚ましく様々な治療法が開発され乳癌患者さんの予後の向上に寄与しています。早期発見と適正な薬物療法は乳癌死亡を減らすための車輪の両輪と考えます。

■治療方法の選択肢

乳癌ではサブタイプ（生物学的な性質）や病期（乳癌の量や転移の有無）そしてご本人の健康状態や遺伝的素因に応じて適正な治

【次ページへ続く】

療を選択することが必要となります。しかし、治療開始までのわずかな期間で、どのような手術を受けるのか（乳房温存 と 全切除）、全切除の場合の切除法（乳輪・乳頭温存 と 切除）や乳房再建の有無と再建方法（自家組織 と 人工物）の選択、サブタイプと病期に応じた適正な薬物療法の選択と治療のタイミング（術前 と 術後）、遺伝リスクを調べるための遺伝学的検査（現在、保険適応となっているのは遺伝性乳癌卵巣癌症候群の原因遺伝子BRCA1/2検査）とその結果による術式や予防手術の選択、更に若年者では妊孕性温存への対応法など非常に多岐に渡る選択と決断が必要となります。

ご存じのように乳癌は日本人女性では最も多いがんで、特に65歳以下の現役世代の女性が半数を占めるところが他癌腫と大きく違うところです。そのため、科学的根拠に基づいた適正な治療を提供すると同時に、患者さんが社会生活・家庭生活を維持しながら治療を受けられるようにさまざまな職種による支援が必要となります。また、ご本人らしい選択ができるように一緒に考えていくことが医療者の大変重要な役割と考えています。



■チーム医療の実践

私が勤務する社会医療法人近森会　近森病院はJR高知駅の前にあり救急車の受け入れは常に高知県1位という高度急性期病院です。私が赴任した2024年4月の時点では、乳癌手術患者数は年間10例前後でした。乳腺センターを開設してもうすぐ2年になりますが、年間100人を超える原発乳癌患者さんの手術を行うようになりました。

このような状況の中で、乳腺（外科）専門医2名と乳癌看護認定看護師1名が中心となって、院内のさまざまな職種のひとたちに対する教育・啓発を行い、多くの診療科、多職種の皆さんと共同して、また、院外から非常勤で緩和ケアや画像ガイド下針生検を行う医師たちやリンパ浮腫療法士（看護師）の支援を受けてさまざまなニーズに応えることのできるチーム医療を実践しています。



日本乳癌検診学会学術総会の市民公開講座の後でスタッフたちと

がん告知を受けて心に動揺のある中で、初めて聞く言葉も多く難解で多様な情報を受け止め短期間で判断し治療方針を決めていくのは患者さんにとって大変難しい作業です。患者さんの言葉に耳を傾け、ご本人らしい治療選択が行えるようにチームで支えていくことがわれわれの使命と考えています。

略　歴

杉本 健樹（すぎもと たけき）
1959年生（66歳）　1985年 高知医科大学（現、高知大学医学部）（II期生）卒業、1989年 同大学院修了。その後、1996年まで消化器外科医として県立病院や大学に勤務。1997年から乳癌診療に携わり、2007年外科の准教授、附属病院の病院教授に就任。2011年 臨床遺伝診療部、2015年 乳腺センター、2019年 がんゲノム医療センターを立ち上げ、併任でそれぞれの責任者として活動。2024年 社会医療法人近森会 近森病院の乳腺センター長に就任し現在に至っています。

オフィシャルサポーターのご紹介

朝日生命保険相互会社

「まごころの奉仕」理念 社会貢献活動に力

職員からの『醸金（きょきん）』をJ.POSHなどに寄付



名鉄駅前で啓発チラシ等を配布（愛知東支社職員）

朝日生命保険相互会社（東京都新宿区、石島健一郎社長）は1888年創業の長い歴史を誇り、現在58支社554営業所、職員４１７９人、営業職員１５００８人（いずれも25年４月1日）体制で業務を展開。「まごころの奉仕」を基本理念とし、社会貢献活動に力を入れており、「多彩な社会貢献・文化支援」の実績を築いていらっしゃいます。０９年２月にJ.POSHのオフィシャルサポーターに登録され、社会との共生を目的とした「社会貢献」の1つに「ピンクリボン運動」を掲げ、毎年全役職員から募った醸金（きょきん）をJ.POSHに寄付して頂いているほか①啓発チラシ配布、店頭ポスター提示②啓発グッズ社内あっせん③顧客向けセミナー開催④同社ホームページでピンクリボン運動の紹介…など幅広い啓発活動を続けておられます。

【社内募金】

創立月である7月を「朝日の月」と定め、毎年、全役職員による「朝日の月」醸金（きょきん）を実施。醸金で集まったお金はJ.POSHを始め社会福祉などの分野で活動する計10団体に寄付金として寄贈されています。毎年実施されている醸金は昨年（25年）で68回目。累計金額は3億９２００万円に上っているということです。

【ピンクリボン運動の推進】

J.POSHのオフィシャルサポーターに登録されて以来、乳がんについての啓発、情報提供、乳房セルフチェックの習慣化や乳がん検査の受診勧奨などの活動を中心としたピンクリボン運動を展開されておられます。ピンクリボン啓発グッズを積極的にご購入頂いているほか、営業職員は顧客訪問時にピンクリボンバッジを付けて乳がん啓発をアピール。ピンクリボン月間の10月、全国の拠点で職員がピンクのブルゾンを着て街頭に出、啓発ティッシュや啓発チラシを配布する街頭キャンペーンを実施されています。

【健保組合と連携し従業員向け『健康ポータル』導入】

「健康経営」推進の一環として、朝日生命健康保険組合と連携し全従業員の定期健康診断の受診勧奨および同診断の『有所見者』に対する二次検診受診の徹底、女性には乳がん・子宮頸がんなどの受診勧奨を通じて疾病の早期発見・早期治療につなげています。健診結果や健康情報などを一元管理して閲覧を容易にすることを目標に『健康ポータル』を導入。従業員の健康意識向上を図っておられます。



J.POSHの情報等をベースに独自のチラシを作成

J.POSHオフィシャルサポーター

認定NPO法人 J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）を通じてピンクリボン運動をご支援いただいている企業・法人・など各種団体の一覧です。

東京海上日動あんしん生命

株式会社フラウ・インターナショナル

株式会社ダイアナ

株式会社ベネフィット・ワン

医療法人健優会 マンモプラス竹尾クリニック

ノイエス株式会社

株式会社オフィストゥーワン

株式会社ヤクルト本社

社会医療法人財団 池友会
福岡和白総合健診クリニック

京都奉製株式会社

スリーエー・ライフ株式会社

JFRカード株式会社

日産プリンス
札幌販売株式会社

株式会社コープデリ保険センター

株式会社ローズ・サプライ

株式会社くわこや

株式会社ジャパックス

株式会社シールズ

ティーペック株式会社

大木産業株式会社

株式会社 iDA（アイ・ディ・エー）

雪印ビーンスターク株式会社

米坂エステティックグループ

株式会社エル・ローズ

株式会社HEAVEN Japan

グンゼ株式会社

THE WORLD株式会社

ミドリ安全株式会社

日本製紙株式会社	伸栄商事株式会社	KOSHIN 高信化学株式会社	CO・OP 日本生活協同組合連合会	学校法人 藤川学園 専門学校 福岡看護職大学校
WACOAL 株式会社ワコール	MEDLINE メドライン・ジャパン合同会社	旭川リハビリテーション病院 旭川リハビリテーション病院	ベルサンテスタッフ株式会社	HRC 株式会社HRC
けやき美容クリニック沼津院 KEYAKI BEAUTY CLINIC NUMAZU	MT METATRON MTコスメティクス株式会社	P24h ECOLOPARK エコロシティ株式会社	KITAZATO® 株式会社 北里コーポレーション	scroll 株式会社スクロール
あなた色に輝く日々を ないろ生命 朝日生命グループ	COOP TOHOKU 株式会社コープ東北保険センターあおもり支店	ニチモウバイオティックス株式会社	明治安田生命	社会医療法人 鴻仁会 岡山中央病院
学校法人 医学アカデミー	snova 株式会社スノーヴァ	NISSAN 滋賀日産	香家 Supreme Tantan noodles SINCE1999 株式会社 香家	CASIO カシオ計算機株式会社
SBI GROUP SBI損保 SBI損害保険株式会社	Liberta! 株式会社リベルタ	DIOR クリスチャン ディオール合同会社	天然アミノ酸スキンケア・サプリメントといえば、ECORO International 株式会社エコロ・インターナショナル	Y.S.T. Y.S.T.SAIKI SINCE 1977 有限会社ワイエスティサイキ
東京メディカルサービス TOKYO MEDICAL SERVICE	CiFLAVORS Create Innovation Ci FLAVORS株式会社	NATURALTECH naturaltech株式会社		

J.POSH オフィシャルパートナー

認定NPO法人 J.POSH（日本乳がんピンクリボン運動）を通じて
ピンクリボン運動をご支援いただいている営利を目的としない
患者会・協会・組合・などの各種団体の一覧です。

乳がん患者会「関西ひまわりの会」	神くわの里 昼神温泉郷 昼神温泉エリアサポート 昼神温泉観光局	藤沢ラグビー蹴球倶楽部	JKK 女性経営者の会 全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会 女性経営者の会	塩原温泉旅館協同組合 女将の会
JGA Japan Glue deco Association establish 2012 一般社団法人日本グルーデコ協会	Saimyouji 最明寺 川越市 最明寺	大阪府レディースバドミントン連盟	KCAFL 一般社団法人 関西学生アメリカンフットボール連盟	

支援企業様のご紹介

石堂硝子株式会社

化粧品容器専門に100年

石堂硝子株式会社（大阪市東成区、髙田厚代表取締役社長）は、化粧品容器の企画・開発・販売を手掛ける化粧品容器専門の『ファブ（fab）レスメーカー』（製造現場をもたないメーカー）として取引先である多くの化粧品メーカーの斬新な容器を生み出しておられます。今年は創業100周年、株式会社設立からは76年（1950年2月）の長い歴史をもち、化粧品業界の取引先は現在、約千社。「元々は社名となっている硝子瓶から始まりましたが、近年はプラスティック製品の方が多くなっているのが現状です。」「化粧品は人を幸せにします。容器を通じて人の幸せに貢献したい」（石堂会長）と社会貢献活動にも力を入れておられ、J.POSHには2005年から毎年ご寄付を頂いています。

■製品のできるまで

納品までの流れは…

①打ち合わせ
②サンプル提出
③デザイン検討
④見積提出
⑤試作品提出
⑥本生産・納品　の順。





商品のコンセプト、デザイン、数量などの顧客のニーズを聞き、容器サンプルを作って色やデザインなどを決めて生産する。



代表取締役会長　石堂裕三様

出来上がりまでの日程はおよそ2ヶ月～。何千種類もの実績品を東京・大阪・福岡の各ショールームに置き、多様な顧客ニーズに即応できる態勢を整えておられます。

■女性が働きやすい職場を

107人の全従業員中女性は約70人で、主に検査部門を担当、品質管理には大きな力を入れておられます。女性が多いこともあって、産前・産後育休100％取得・復帰を実現。不定期で乳がんセミナーの開催など女性の健康に対する啓発活動も実施されています。

■福利厚生費の一部を社会貢献に

社会貢献活動は「I'm Gladプラン」と称した社内プログラムで対応中。社員旅行、新年会、ボウリング大会など福利厚生に支出した費用の一部を社会貢献に使おうというもので、これまでに不定期では日本赤十字社を通じて大地震の義援金を寄付したのを始め、05年以降は定期的にJ.POSH、あしなが育英会に寄付されています。「もっと社会に貢献できることを実行したい」（石堂会長）として月1回の「ソーシャルデー」を立ち上げ、従業員が話し合っていろいろな活動に取り組んでおられます。「消費者の皆さまにも共感と共鳴を届けていきたい」（同）と話してくださいました。

がんは人生の通過点。これからも自分のペースで。

個人サポーター　**宮﨑 美加さん**

乳がんを告げられたあの日。医師の声は聞こえているのに、音や色が遠くなるような、不思議な感覚の中で、私はただ静かにその言葉を受け止めていました。けれど、気持ちはまだ現実に追いついていないまま。

それでも時間は止まらず、手術の日はやってきます。家族待合室で、一人待つ娘。「頑張ってね」と笑顔を見せてくれたけれど、どこか不安

げな表情でした。あの姿を思い出すと、今も心がぎゅっと締めつけられます。あれから六年以上が経ち、娘は二人の子どもを育てる母になりました。小さな命を抱く姿を見ていると、ただそれだけで嬉しくなります。

手術後の数年は、生き急いでいました。「早く術後〇年になってほしい」「〇年生きられたという証がほしい」そんな区切りの数字に、すがるような気持ちでした。無理をして行動範囲を広げ、「これだけ動けるのだから大丈夫」と自分に言い聞かせる日々。今振り返ると、ずいぶん頑張りすぎていたのだと思います。



がん友（写真右下）と一緒に行った大阪関西万博クウェートパビリオンにて

がんになって一番大きな出会いは、女性専用のがん患者向けSNSです。同じ病気と向き合う人たちの言葉に触れ、「弱さを見せてもいい場所」「仲間がいる」と思えたことに、どれほど救われたことでしょう。術後すぐのコロナ禍は、SNSで出会った“がん友”と支え合う時間でした。コロナが明け、リアルで会うことも叶い、一緒に万博や旅行へ行ったり、同世代の仲間とオフ会をしたり。笑って、たくさん話せることが、ただただ嬉しかったです。病をきっかけに生まれたご縁は、今もあたたかく続いています。

もともと、心理学やカウンセリング、アロマやハーブなどの資格を取得しており、誰かに寄り添えたらという思いを持っていました。がんを経験したことで、その気持ちはより強くなったように感じています。自分自身の学びにもつなげたいという思いから、大阪府がんピア・サポーター養成研修を受講。そこでも、新しい仲間との出会いがありました。これからも、がんを通じて知り合った仲間や友と、経験を分かち合える場所を大切にしていきたいです。

「どうして私が」と思うこともありました。再発や転移が、今もふと頭をよぎることもあります。でも、答えは見つからないので、悩みは一旦引き出しの中へ。過去を振り返ったり、未来を怖がったりするよりも今日をどう過ごそうか、明日は何を食べようかと考えながら、目の前の小さな日常を大切にし、向き合うべきものはゆるりと受け止めています。

とはいえ、いつも前向きでいられるほど器用ではありません。揺れたり、立ち止まったりの繰り返し。「でもね、それでいいよね」と思えるようになり、そんな不器用な自分も、今はとても愛おしく感じています。

もう六年。まだ六年。どちらも、まぎれもない本音です。がんになんてなりたくなかった。それが正直な気持ちです。それでも。がんになったからこそ、丁寧に生きようと思えたり、大切だと気づけたものもありました。

今は、自分にできることを、できる範囲で。やりたいことはやる。行きたいところへは行く。そんなシンプルな生き方を、私なりに大切にしています。私の人生の主役は、がんではなく「私自身」今までも、そしてこれからも。





SNSの同世代オフ会の会場模様と写真

2026年個人サポーターへご登録おねがいします

ピンクリボン運動に興味のある方・興味はあるけど何をしていいかわからない方 まずは個人サポーターからはじめてみませんか?

活動1　登録時に啓発キットをプレゼントしますのでまずは周りの方々へ配ることから啓発活動を始めてください

活動2　個人サポーター登録料は寄附としてJ.POSHの活動を支えます

登録特典

①ピンクリボンNEWS（年4回発行）が届きます。
②J.POSHの各種キャンペーンへの参加資格があります。
③登録時に啓発キットをプレゼントします。

啓発キット　2026年度だけの特典
- ピンクリボンピンバッジ……1個
- 啓発リーフレット……10部
- 啓発ポスター……2部
- 啓発ティッシュ……5個

※登録期間は4月～翌年3月末までの1年制（年度途中の登録も可能です）
※登録料（年間¥2,000）は寄附として寄附金控除等の税制上の優遇措置を受けることができる領収書（寄附金受領証明書）を発行いたします。

個人サポーター登録料お支払い方法

登録料（年間）¥2,000　**登録推奨期間：2026年6月末日**

銀行口座
三菱UFJ銀行　大阪営業部
普通：3813981
口座名：特定非営利活動法人J.POSH（ﾄｸﾃｲﾋｴｲﾘｶﾂﾄﾞｳﾎｳｼﾞﾝｼﾞｪｲﾎﾟｯｼｭ）

郵便振替
口座番号
00950-1-296884

クレジット
左記コードは個人サーター登録料のみ対応です。

年間を通じて定期的な支援をご検討いただける場合はマンスリーサポーター登録もご検討ください。（右のQRコードよりアクセスください）

個人サポーター継続を希望される場合は毎年ご登録をお願いします

ピンクリボンNEWSあとがき

メダルの重さ





「2026ミラノ・コルティナオリンピック」は、わが国にとって冬季オリンピック史上最多のメダル獲得という快挙と数々の感動を残して幕を閉じました。金・銀・銅と色は違っても、選手それぞれがその重さをかみしめていたようです。ベストを尽くした日本人選手たちの胸に輝くメダルを見て、同じ日本人として崇（あが）める心が自然に湧いてきました。オリンピックの世界では成績優秀者にメダルを授与し称えます。我々凡人がそんな価値あるメダルを戴く機会などまず皆無。いや、待てよ…そういえば1度だけ首に掛けてもらった記憶があります。幼かった我が子が父の日に『お父さんありがとう』というメッセージ付きの紙製の“金メダル”を首から掛けてくれましたかなぁ（笑）！メダル繋がりで思い出したのがノーベル賞のメダル。こちらのメダルはリボンがついておらず胸にかけるものではないようですが、スウェーデン国王（平和賞はノルウェーノーベル委員会委員長）から直接手渡される重みのあるメダルだそうです。２５年のノーベル賞は坂口志文氏（生理学・医学賞）、北川進氏（化学賞）の2人の日本人が受賞されました。オリンピックもノーベルも、どちらのメダルの授与にも日本人であることを誇りに思う瞬間でありました。（I.T）

事務局から　毎号ピンクリボンニュースをご愛読いただき、ありがとうございます。今後の参考にさせていただきたく、ご意見、ご感想を事務局宛（jposh@j-posh.com）にお寄せ頂ければ幸いです。また送付の停止をご希望される場合もメールにてご連絡ください。